

大基委大評第146号

平成25年3月15日

大 谷 大 学  
学長 草 野 顕 之 殿

公益財団法人 大学基準協会  
会長 納 谷 廣



貴大学の「改善報告書」の検討結果について (通知)

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

標記に関し、本年度、貴大学よりご提出頂きました「改善報告書」を、大学評価委員会において慎重に審議を行いました結果、別紙の通りとりまとめましたので、ご通知いたします。

敬具

記

添付資料 「改善報告書検討結果 (大谷大学)」

以上

## ＜ 改善報告書検討結果（大谷大学） ＞

### [1] 概評

2008（平成 20）年度の本協会による大学評価に際し、問題点の指摘に関する助言として 13 点、勧告として 1 点の改善報告を求めた。今回提出された改善報告書からは、これらの助言・勧告を真摯に受け止め、意欲的に改善に取り組んでいることが確認できる。

ただし、次に述べる取り組みの成果が十分に表れていない事項については、引き続き一層の努力が望まれる。

教育内容・方法については、文学部における半数以上の学科で留年率が 20%以上にのぼることについて、指導教員を対象とした留年学生に関するアンケート調査の分析結果などを踏まえ、改善・改革に努めているが、抜本的な改善にはいたっておらず、引き続き改善が望まれる。また、博士後期課程の学位授与状況について、博士論文作成に向けた入学後の研究指導を徹底するなど、改善に取り組んでいるものの、依然として学位授与数が少なく、未だ成果が見られないので、引き続き改善が望まれる。

研究環境では、教育研究業績書への記載が十分ではなかったことから、研究活動ならびに教育活動が低調な教員が散見されることについて、「教育研究業績書作成の手引」を作成するなど、業績書への記載を徹底するように取り組んでいる。しかし、未だ記載していない教員がいるため、引き続き改善が望まれる。

### [2] 今後の改善経過について再度報告を求める事項

なし

以 上